

情報共有 本店記者レクのメモ

(10枚) 3月31 18時以降は別途送行 H23.3.30③議事メモ.doc Last printed 4/1/2011 2:00:00 AM
致します。

プラント状況（本店レク）議事メモ

日時：平成23年3月30日（水）22:55～0:10

場所：東京電力本館1階101A会議室

先方：記者約55名（カメラ6台）

当方：原子力設備管理部

本店広報部

配布資料：

- ・福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ（3月30日午後8時現在）
- ・福島第二原子力発電所プラント状況等のお知らせ（3月30日午後9時現在）
- ・東北地方太平洋沖地震をふまえた柏崎刈羽原子力発電所の津波対策の検討状況について
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・福島第二原子力発電所モニタリングによる計測状況
- ・福島第一原子力発電所仮設モニタリングポストによる定点計測状況
- ・福島第一原子力発電所1～3号機プラント状況
- ・福島第一原子力発電所1～3号機原子炉圧力容器周辺温度 [°C]

【質疑】

Q. 集中環境施設で溜まり水が確認された管理区域と非管理区域の広さと水の深さは。

A. 管理区域の床面積は約5,500 m²で、非管理区域の床面積はボイラー室で約500 m²。

水の深さは管理区域が約3mで、非管理区域は約4mと聞いている。

Q. 粉塵飛散防止剤の散布の概要は。

A. 31日から二週間程度かけてクリコートという飛散防止剤を試験的に毎日散布する予定。これは埋立地やダムの法面浸食防止など、広く土木分野で使用される合成樹脂を主成分とする材料。原液9,000リットルを稀釀して、合計6万リットルを二週間かけて、4号機西側の共用プールから集中環境施設の裏側くらいまで散布する予定。

Q. 敷布エリアを選んだ理由は。

A. 詳細は確認させていただくが、線量や機器の配置等を踏まえてのことかと思う。

Q. 敷布は人手で行うのか。

A. 容量2,000リットルの散水車1台で散布する。散布の際はホースを人が握んで散布する。

Q. 敷布の時間は。

A. 現時点では把握していない。

Q. 試験運用ということだが、散布の効果をどのように評価するのか。工程も含めて教えて欲しい。

A. 確認させていただく。

Q. 勝俣会長会見で「本日より30箇所でモニタリングを開始した」との発言があつたが、概要について教えて欲しい。

A. 本日から20km圏内で30箇所のモニタリングを実施する予定であったが、雨が降り出したことから7箇所については測定を中断している。

Q. 海水サンプリングはどうするのか。

A. 沖合15km地点での実施を予定しており、現在、実施に向けて検討中。

Q. 30箇所のモニタリングは常設か、それともモニタリングカーによる観測か。評価はどの程度時間がかかるのか。

A. 確認させていただく。

Q. 集中環境施設の溜まり水の由来は。

A. サンプリングを実施した結果、核種はまだ結果が出ていないが、 10^1 ベクレル程度の線量がでている。このレベルであれば、恐らく主のものは津波による海水が溜まった可能性が高いと思われる。

Q. 直ちに処理するものなのか。

A. 高くはないが線量がでているので、現在、処理方法について検討しているところ。空間線量も0.5マイクロシーベルト/h程度なので普通に作業できる範囲である。

Q. 3号機のトレーナーに溜まった水のサンプリング結果は。

A. 確認させていただく。

Q. サプレッションサージタンクの残容量は。

A. 正確な数値は確認できていないが、だいたい半分程度かと思われる。

Q. タービン建屋地下の溜まり水の排水状況は。

A. 1号機は昨日の朝7時30分から停止状態。2号機は復水貯蔵タンクの水をサプレッションサージタンクに 10m^3 で/hで排出中。3号機も 25m^3 で/hで排出中。順調にいけば、明日の朝と夕方にそれぞれ移送が完了する見通し。

Q. 集中環境施設にある放射性廃棄物はどうなっているのか。

A. 線量は高くないので大きな破損等はないものと考えている。しかし、施設内の機器が水を被っているので直ちに動かせない状況である。

Q. 集中環境施設が使用できなくなったことにより、作業への影響はあるのか。集中環境施設の地下にアクセスできるようになつた状況変化は何か。またアクセスの目的は。

A. 復旧には時間がかかると思われ、たまり水を処理できなくなつた。アクセスしたのは物理的な状況の変化があつた訳ではなく、プラントが比較的落ち着いたことでアクセスの時間がとれるようになった。

Q. ラド施設はここだけか。

A. 一部遊休施設となっているが、各プラント側に、昭和58年にこのラドが建設されるまで使用していた施設がある。

Q. 水は全て地下に溜まっているのか。排出することによりボイラーは動くのか。

A. 地下2階に3~4mの深さ溜まっている。ボイラーは電気式であり、動かすのは厳しい。ポンプについても使用は厳しいと思うが、点検には時間がかかる。

Q. 2号機タービン建屋の溜まり水は、床ドレン系として処理することになるのか。

A. 床ドレンとして扱う。

Q. 集中環境施設はどういう手順で復旧するのか。

A. 検討中。

Q. 高線量の大量の海水は処理できるのか。

A. 何とも言えない。

Q. 海外からの技術協力を受ける可能性は。

A. 可能性はあると思う。

Q. 1号機の溜まり水を集中環境施設に移すことだったが、影響はあるのか。

A. 地上階にあるタンクが使える見込みがある。1号機の縦坑の水は、ポンプ車を使用して集中環境施設のペレット槽に排出する予定。

Q. 1~4号機は一見安定的に見えるが、パラメータの変動を説明できる状況にあるのか。

A. 圧力容器の上部と下部の温度差は説明できないが、注水量で温度が変化するので水が入っていることは確認できている。

Q. 炉の状態が把握できるようになるのはいつ頃になるか。

A. 現時点では申し上げられない。

Q. ラドのペレット槽の容量は。

A. 800m³ラドの地下から立ち上がっている。投入口は地上階にある。

Q. タービン建屋の溜まり水とトレンチの水位の状況はどうか。2号機の溜まり水の線量の再測定は行ったか。溜まり水などの保管容器の容量は。粉塵の飛散防止剤の散布エリアの汚染状況は。

A. いずれも水位の状況は把握できていない。2号機の溜まり水の線量の再測定を行ったという情報もない。粉塵の飛散防止剤の散布エリアの線量については確認する。全てのタンクの残容量についても確認する。

Q. 1号機の注水流量は。

A. 1号機は133リットル/分

H23.3.30③議事メモ.doc Last printed 4/1/2011 2:00:00 AM

2号機は133リットル／分

3号機は116リットル／分

Q. 注水しても溜まり水が増えないのは、どこかへ流出しているのでは。

A. 昨日の朝までは溜まり水の移送用のポンプが回っていた。流出の可能性は否定できないので注意深く見ている。

以上